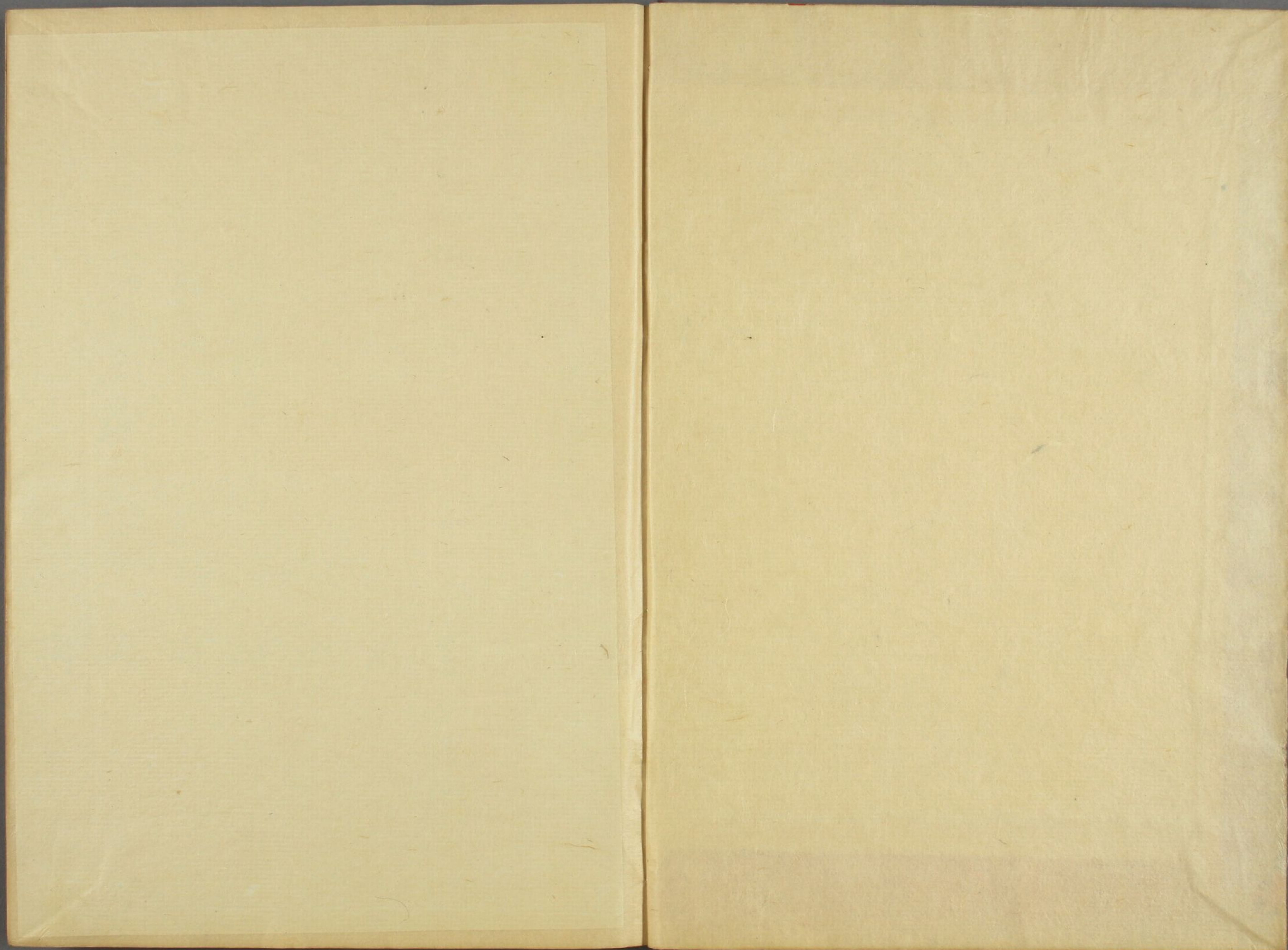


扶桑拾葉集

九







扶素拾葉集卷第九

目錄

古來風旂抄序

同後序

正治奏狀

泚蒙濯川歌合序

五社百首序

日吉古社歌合序

同跋

若原俊成

同

同

同

同

同

同



すみゆく歌合跋

同

氏部卿家歌合跋

同

安乃集の内

右京大夫

安え沖賀乃記

藤原澄房

艶詞

同

扶桑拾葉集卷第九

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

古來風神抄序

藤原俊成

やまここのゝとてさうのこゝに積ることをいふれり
るやふゆ神代をばしほしうしてささくまのふ
りこやわささるうらよるまららるのあこころ
こららあつあつお義よわらさるのこやこころ
川代りくらそめの古今集の序よりいひ
とくのこころお多かるいふべからむまの
葉とつらにわらへるまの花とつらのおのり

ふきくころゆねしをいひぬるまじ
なりをふしゆくかろ止観もまふ佛乃法
とほくふまうくる功尊とあししてのど志
ころれはしるまふふとを人よとくしん
まろのれなり大覚世尊乃の法大迦葉
まほ多とゆくり迦葉阿難うはくかかれ
しく功尊まほしく師子にふふまて
廿三人なりころ法を傳り功尊とましく
まろしとほくもあふましくしんまじり
まろしとゆくりて撰集とらふのまじり
百葉集よりけしるまろ古今後撰拾遺

かこのの歌乃ありしゆまゆくしるまじ
まろしかまの法文金口乃ゆま義也これ
浮言綺語乃まろゆれまろまろこれとま
のゆましむねとあしこれと縁まして
佛乃まろしゆまろまろまろの煩悩ま
まろまろ提まろまろゆり法苑經ま若從
俗間經書略資生業等皆順正法とま
普賢觀まゆまゆまゆこれ飛まゆまゆか
これゆ飛福無主我心自空ありとまゆ
まゆまゆ心ゆ龍乃ゆまゆまゆまゆま
中乃之掃まゆまゆまゆまゆまゆま

こわらぬのみのもてまを物くさる
多しあふあふにをけの作らぬ
やうせりあふくち多龍のやとむ
事らふれらるるをかくらぬ
とぬら思ふわれをうとるあたら
ゆららるる成る業乃ちをさきて
乃ちとらむをうぬのいむはるぬを
世の事くかき別業集よりうとる中古
古今集後撰拾遺しを後拾遺よりうとる
とぬらるる世のうけをゆめとる
けしとる業とありゆりゆりありとぬと

代この撰集よりうとる
今記やうそれよりえ新乃ちとる
ゆめくありとるに佛道より
法文よりとるゆめ事なりをゆめ
し乃ちゆめとるゆめとるゆめ
見らるる事いむゆめとるゆめ
ゆめとるゆめとるゆめとるゆめ
ゆめとるゆめとるゆめとるゆめ
ゆめとるゆめとるゆめとるゆめ
ゆめとるゆめとるゆめとるゆめ
ゆめとるゆめとるゆめとるゆめ
ゆめとるゆめとるゆめとるゆめ

としいとらまへす。このえは、ね乃也よふとを先
多之が命乃りうりて、うたふ。Suisiの心
のうは、さぬくは、いんぼいぬの、このをら
乃あやもくしうりて、うたふ。やとて、まめ
のあこらうりて、うたふ。乃葉のらう
うせうらんおんばい、うらはうらうらうとを。
又うらんをうりて、このみらまを、う
んちよらうはうのまらと、皆れおのらじふ
ねこ乃御ま、このれうりて、義めうりて、法文
を、盡やうりて、このうり、往生極樂乃えんとて、
とてい、善賢乃願海、このうりて、録奇の、

とてい、佛を、うりて、このうりて、佛
あやうばく十方乃佛ちれ、社結、まらうり
法、法乃えん、導せん、導らん、建之と
ま、このゆ家年のやと、管らん月のなりの、管
うりて、このうりて、このうりて、このうりて、管
のうりて、このうりて、このうりて、このうりて、管
とてい、このうりて、このうりて、このうりて、管
とてい、このうりて、このうりて、このうりて、管
集とらうりて、このうりて、このうりて、管
抄と名は、このうりて、このうりて、管

なまむらさき...
さくら...
あはれ...
み...
は...
と...
し...

よ...
う...
じ...
さ...
事...

正治奏状

同

萬葉集 聖武天皇御時
被撰之
堀河院御時
所時皆歳三十
餘者...
乃...
入道位...
又三十...

よりころきねりてはしるれはしるるにあらむ
務まけとほさきれあはらむちの務員と
いひさるるに判のしるるに執事
村上れ沙時天徳宗令と判るる
紫の書と判るるに後永義義居り
吾今とさるるに乃家とさる
よりわらゆるははきしれはしるる
しるるにありあはる佛寺とて結縁と稱し
あはるに靈社とて神威と称す
ははととしるるに判とさるるに
今乃愚者とて判るるに

しるるに海城海とていひてはしるるに
しるるに務員とていひてはしるるに教
るるにありあはるしるるにありあはる
あはるに且このありあはるにありあはる
色んねとていひてはしるるに其れとてありあはる
しるるにいしるるにありあはるに明神とてありあはる
あはるにありあはるにありあはるにありあはる
のしるるにありあはるにありあはるにありあはる
あはるにありあはるにありあはるにありあはる
後と判りてありあはるにありあはるにありあはる
はは席とてありあはるにありあはるにありあはる

いしよふ事るまはれい古き時流る
今れ世の緒他みふ事さく事とも
やうのころ事るさくさく内正年
よわこれさふさくは事減らとりち
あられとも上人田位壮年れじ
ようたらひりさめれと志事さ
よわさくニ世のらさくさくじすひさ
あき名もさくさくの後る歌居い
川と流さくさくさく昔れ事梁ち
且言さくさく事さく其さく
うれいよの奇合の義さくさくさく

あわさくさく先らめさくさくさく
あわさくさくさく御の物りめ辞事
ともとさくさくさくさくさく
の事れはサさくさくありれ小ぬひ
さくさくさくさくさくさくさく
天兼忠義のさくさくさくさく
は通さくさくさくさくさくさく
の心乃花のさくさくさくさくさく
さくさくの月れさくさくさく今
さくさくさくさくさくさくさく
人のさくさくさく素門さくさくさく

今二百首たお欲とる事なほひてみたり
 一らの身家の口をへしとてつと書きて
 まはし事あましとてまへしとてつと書きて
 だちる一よらふしとてつと書きてつと書きて
 んしにのけふはしとてつと書きてつと書きて
 いるし申さしとてつと書きてつと書きて
 とある事しとてつと書きてつと書きて
 末は理得末は理得のつと書きてつと書きて
 危くはつと書きてつと書きてつと書きて
 にもつと書きてつと書きてつと書きて
 取すつと書きてつと書きてつと書きて

まはしとるしとてつと書きてつと書きて
 のつと書きてつと書きてつと書きて
 つと書きてつと書きてつと書きて

同破

同

今破れつと書きてつと書きてつと書きて
 たりつと書きてつと書きてつと書きて
 ことおぬつと書きてつと書きてつと書きて
 かるつと書きてつと書きてつと書きて
 つと書きてつと書きてつと書きて
 破つと書きてつと書きてつと書きて

もどかしくも出でしもの
ゆるらるるやうにふらふら
付するにふらふらに
わくわくする花のわらわらに
林の月のふたふたを
らの月が白く影のふたふた
すくらわらるるやうに
わらわらにふらふらに
りやうにふらふらに
るあつたふらふらに
葉のふらふらに

さうらわらとふらふら
湧首のふらふら合ふ
あつたふらふらに
いふふらふらに
とらふらふらに
らふらふらに
むらふらふらに
みやふらふらに
せふらふらに
あふらふらに
わらふらふらに

しそそくゆわ

うらやましき心よき世をなするをいふは

浄法の月れりていふは

とこころし 徳舎の跋

同

柳如神乃しれたをらひるるしそそくゆわ
其のそこころしき世をなするをいふは
しそそくゆわしき世をなするをいふは
なひくはしき世をなするをいふは
あつらひしき世をなするをいふは
おほしき世をなするをいふは

おほしき世をなするをいふは
しそそくゆわしき世をなするをいふは
なひくはしき世をなするをいふは
あつらひしき世をなするをいふは
おほしき世をなするをいふは
しそそくゆわしき世をなするをいふは
なひくはしき世をなするをいふは
あつらひしき世をなするをいふは
おほしき世をなするをいふは
しそそくゆわしき世をなするをいふは
なひくはしき世をなするをいふは
あつらひしき世をなするをいふは
おほしき世をなするをいふは
しそそくゆわしき世をなするをいふは
なひくはしき世をなするをいふは
あつらひしき世をなするをいふは

まひつひらくしむらびとぬれはるるあまのけしき
りららるる所あるはくくくくくくくくくくくくく
はかたのけしきぬれはるるあまのけしき
つねにわねにすむらびとぬれはるるあまのけしき
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
やゝのけしきぬれはるるあまのけしき
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まひつひらくしむらびとぬれはるるあまのけしき
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あまのけしきぬれはるるあまのけしき

あまのけしきぬれはるるあまのけしき

あまのけしきぬれはるるあまのけしき

そ乃ららるるあまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき

あまのけしきぬれはるるあまのけしき

あまのけしきぬれはるるあまのけしき

あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき
あまのけしきぬれはるるあまのけしき


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open book. The text is written in black ink on aged paper. Several characters are marked with red dots, possibly indicating specific points of interest or corrections. The script is fluid and continuous across the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open book. The text is written in black ink on aged paper. Several characters are marked with red dots, possibly indicating specific points of interest or corrections. The script is fluid and continuous across the page.

と云ふは、
此の世に、
人の心は、
何れも、
同じく、
神の御心、
に依りて、
生かされ、
養はれ、
守られ、
導かれ、
救はれ、
榮え、
光榮せ、
と云ふ、
事なり。

と云ふは、
此の世に、
人の心は、
何れも、
同じく、
神の御心、
に依りて、
生かされ、
養はれ、
守られ、
導かれ、
救はれ、
榮え、
光榮せ、
と云ふ、
事なり。

予は... 車... 記

... 記

安元御賀大記

後原澄房

安元二年... 院... 西... 記

〜つ〜さ〜ら〜楽〜と〜り〜
〜
〜と〜よ〜せ〜て〜入〜佛〜寺〜昇〜鈴〜下〜と〜中〜門〜の〜少〜
〜
乃時〜

基房 隆宗 兼實 師長 隆平

大納言六人 定房 重盛 右大臣 公保 隆平

中納言七人 兼雅 邦国 宗盛 右大臣 實綱

二位中将 兼房 時忠 别当 雅和

宰相八人 成範 右大臣 頼盛 右大臣 朝方

三位七人 家道 信隆 基通 右大臣 基家 信成

取上人 爲人 頼高 の 此 孫 あり 切と して 然 然と して
の ころ ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
中 つら ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
わら ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
の ころ ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
の ころ ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
の ころ ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
の ころ ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと

川花人としてふむ位花物としてくし、上卿より
てまの爲花人として五位及上人よさつて侍候
よむとてついでに御所のよむとてあまのよむと
これとてさきく御所のよむとてあまのよむと
らひひ及上人侍候内登諸衛別友の上卿と
たを長院の別当とて、以右六年長方胡長
中つれとて別当別友代とてついでに上卿
のよむとてあまのよむとてあまのよむと
れく中つれとてあまのよむとてあまのよむと
らひひとてあまのよむとてあまのよむと

上卿より申交たまふところなり、上卿より
のゆりにあまのよむとてあまのよむと
其教をらひくあまのよむとてあまのよむと
してついでに御所のよむとてあまのよむと
ものよむとてあまのよむとてあまのよむと
相内にあまのよむとてあまのよむと
後供位を後役送支願以下、四位及位、皇衛
右馬以、御所右中弁、時實少将、親宗、権弁、管燈侍位
入御、五位及上人、侍候、あまのよむと
ついでに、南のよむとて、西のよむとて
二叔とてあまのよむとてあまのよむと

沸あそひしつちの園白の笛とんこのゆいふ
入て天皇よきまらるゝ右大臣高直高直大
長師長等申文大吏あると云 箆大細大細のふ
留留按察使と云と云 掎掎子宰相の政和琴和琴の
印印存存持持新盛新盛のいふいふいふいふいふいふいふ
あなまらしりるるいふいふいふいふいふいふいふ
に平平のいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
乃乃のいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
たたのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
りりのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
ままのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

らるるいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
よもいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
先先のいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
のいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
ししのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
昔昔のいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
みみのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
りりのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
くくのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
ををのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
ととのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
ととのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

りさいひいひるあまふらけを井のあとのあつたふり
 一節ちりつさいあつたふりつに二節左集巻巻教巻
 秘本しりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 のあつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 とせあまふらけを井のあとのあつたふりつさいあま
 あまふらけを井のあとのあつたふりつさいあま
 さつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 けつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 のあつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 入集下みつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 かくあつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり

あまふらけを井のあとのあつたふりつさいあま
 りつさいあまふらけを井のあとのあつたふりつさいあま
 まつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 らつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 てつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 乃つたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 ちつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 もつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 うつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 めつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり
 のあつたふりつさいあまふらけを井のあとのあつたふり

おらぬんうしなひのそとねんかかき
うらひのさかきとさかきとさかきと
なれぬ井のさかきとさかきとさかきと
のゆらゆらとさかきとさかきとさかきと
さかきとさかきとさかきとさかきと
田舎のさかきとさかきとさかきと
らよさかきとさかきとさかきと
さかきとさかきとさかきとさかきと
つとねいさひらえうらねあはれなむと
さかきとさかきとさかきとさかきと

已あそりさかきとさかきと
んつとねいさひらえうらねあはれなむと
乃徳のさかきとさかきとさかきと
房の舟の舟のさかきとさかきと
さかきとさかきとさかきとさかきと
よさかきとさかきとさかきとさかきと
のくさかきとさかきとさかきと
さかきとさかきとさかきとさかきと
兼寅内らさかきとさかきとさかきと
うさかきとさかきとさかきとさかきと
さかきとさかきとさかきとさかきと

○今○所○在○の○山○田○ノ○所○在○ハ
○上○野○ノ○所○在○ハ
○下○野ノ所在ハ
○大○野ノ所在ハ
○小○野ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ

○今○所○在○の○山○田ノ所在ハ
○上○野ノ所在ハ
○下○野ノ所在ハ
○大○野ノ所在ハ
○小○野ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ
○山○田ノ所在ハ

あふいとそつふあふふらふ時流座んく
らあふふらふのあふふらふ中將
ふらふとそつふあふふらふ石の
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ

ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
右ふらふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
ふらふらふふらふとそつふあふふらふ
急員乃自世の先

破一通
急三通

あき白鳥一月とてわらわに
しやまをばかすもあはれ
もたぬまはるるにや
こころをばかすもあはれ
うらみもばかすもあはれ
らるるも神のまはるる
しやまをばかすもあはれ
あき白鳥一月とてわらわに
しやまをばかすもあはれ
もたぬまはるるにや
こころをばかすもあはれ
うらみもばかすもあはれ
らるるも神のまはるる
しやまをばかすもあはれ

あき白鳥一月とてわらわに
しやまをばかすもあはれ
もたぬまはるるにや
こころをばかすもあはれ
うらみもばかすもあはれ
らるるも神のまはるる
しやまをばかすもあはれ
あき白鳥一月とてわらわに
しやまをばかすもあはれ
もたぬまはるるにや
こころをばかすもあはれ
うらみもばかすもあはれ
らるるも神のまはるる
しやまをばかすもあはれ

あかりまゝのまゝに
ま

し
ま

あかりまゝのまゝに
ま

あかりまゝのまゝに
ま

あかりまゝのまゝに
ま

あかりまゝのまゝに
ま

ま

あかりまゝのまゝに
ま

あかりまゝのまゝに
ま

あかりまゝのまゝに
ま

あかりまゝのまゝに
ま

あかりまゝのまゝに
ま

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. Several characters are marked with red dots, possibly indicating specific phonetic values or syllable boundaries. The script is dense and fluid, with many overlapping strokes.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It consists of about 10 horizontal lines of text. Like the left page, it features several red dots marking specific characters. The overall style is consistent with the adjacent page, showing a highly stylized and connected form of writing.

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open book. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. Several red ink marks, possibly initials or corrections, are visible throughout the text.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open book. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. Several red ink marks, possibly initials or corrections, are visible throughout the text.

あなうらよなまこくわいしほ
しる月よしとくしる
とをりしとふしとく
をりしとふしとく
しる月よしとくしる
あなうらよなまこくわいしほ

あなうらよなまこくわいしほ
しる月よしとくしる
とをりしとふしとく
をりしとふしとく
しる月よしとくしる
あなうらよなまこくわいしほ

あなうらよなまこくわいしほ
しる月よしとくしる
とをりしとふしとく
をりしとふしとく
しる月よしとくしる
あなうらよなまこくわいしほ

あなうらよなまこくわいしほ
しる月よしとくしる
とをりしとふしとく
をりしとふしとく
しる月よしとくしる
あなうらよなまこくわいしほ

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink marks, possibly initials or corrections, scattered throughout the text.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink marks, possibly initials or corrections, scattered throughout the text.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink marks, possibly initials or corrections, scattered throughout the text.

あはれこころをいふはなはたむかしき
うた

うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき

あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき

あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき
あはれこころをいふはなはたむかしき
うたをいふはなはたむかしき

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 lines, with some characters highlighted in red ink. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It consists of about 10 lines of text, with several characters marked with red ink. The handwriting is consistent with the left page, showing a high degree of fluidity and speed.

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page. The text is written in black ink with several red ink accents or corrections. The script is highly stylized and fluid, characteristic of a cursive hand. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, flowing from right to left across the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page. The text is written in black ink with several red ink accents or corrections. The script is highly stylized and fluid, characteristic of a cursive hand. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, flowing from right to left across the page.

たつたあはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あはれなうらなひのうらなひ

あまのついでにわが身をたもたせよ
とていふ神はまことにあまのついでに
わが身をたもたせよとていふ
あまのついでにわが身をたもたせよ
とていふ神はまことにあまのついでに
わが身をたもたせよとていふ

あまのついでにわが身をたもたせよ
とていふ神はまことにあまのついでに
わが身をたもたせよとていふ
あまのついでにわが身をたもたせよ
とていふ神はまことにあまのついでに
わが身をたもたせよとていふ

あまのついでにわが身をたもたせよ
とていふ神はまことにあまのついでに
わが身をたもたせよとていふ
あまのついでにわが身をたもたせよ
とていふ神はまことにあまのついでに
わが身をたもたせよとていふ

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


扶桑拾葉集卷第九

扶桑拾葉集卷第九

